

工事だより

Check!

平成20年度 上院内道路改良工事

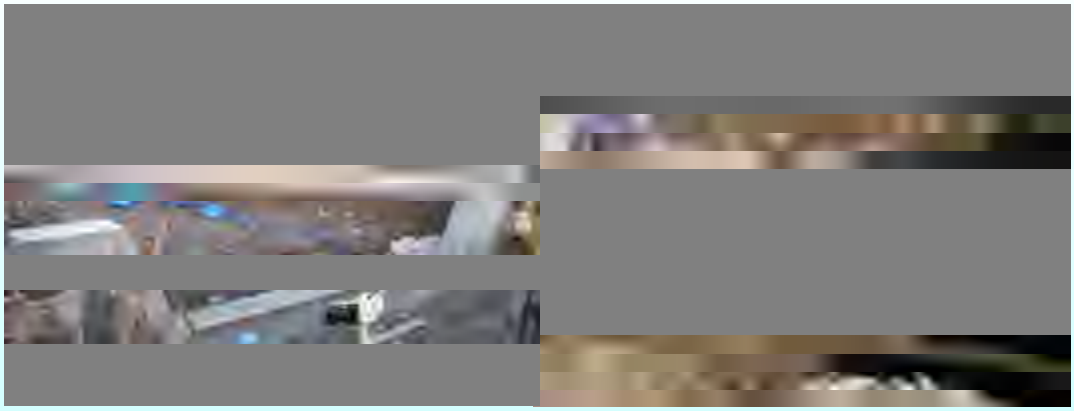
進捗状況
11/30現在

NO.1

一号函渠工（完成）　　二号函渠工(完成)



護 岸 工（景観配慮機能型ブロック）



1号帯工完成　　右岸･左岸 (250m) 施工

12月（師走）

日本では、旧暦 12 月を師走（しわす）または極月（ごくげつ、ごくづき）と呼び、
現在では師走は、新暦 12 月の別名としても用いれ、その由来は坊主（師･師には、僧侶の意味もある）が走り回るほど忙しくなるからと、言われているが、本来は伊勢神宮や各地崇敬社の御師（神宮大麻･神札を配る祈祷師）達が各家庭を巡る事からである。



11月

工事だより

Check!

平成20年度 上院内道路改良工事

進捗状況
10/31現在

NO.1

一号函渠工（完成）



二号函渠工(完成)



護 岸 工（景観配慮機能型ブロック）



完成予想イメージ



右岸･左岸(240m)施工

院内道路協議会3現場合同環境対策

現場内発生の枝･伐根を現場内破砕処理を行い再利用化し環境配慮
利用用途(マルチング材･法面吹付け材･肥料)



一次破砕処理



二次破砕処理



養生処理

10月

工事だより

Check!

平成20年度　上院内道路改良工事

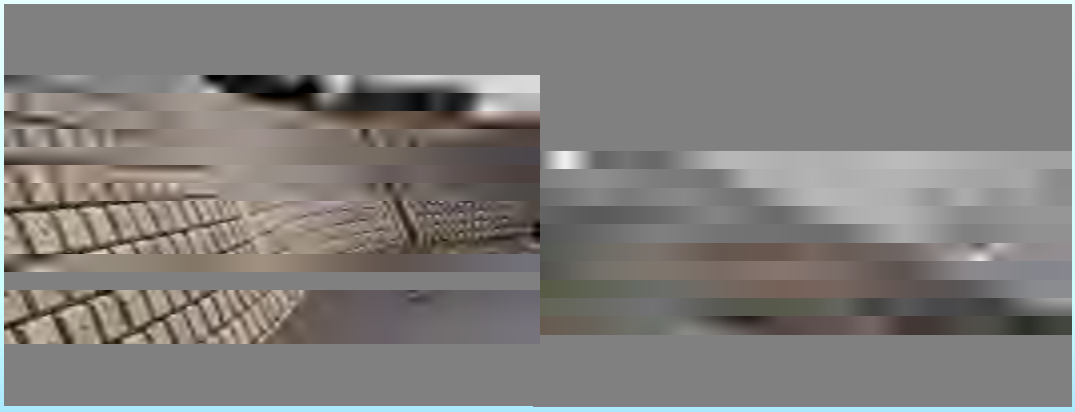
進捗状況
9/30現在

NO.1

一号函渠工（完成）　　二号函渠工(完成)



護　岸　工（景観配慮機能型ブロック）



完成予想イメージ　　右岸（60m）施工

1号函渠工･2号函渠工完成

皆様のご協力により、無事1･2号函渠工が完成となりました。
協力くださいました、各会社及び地域住民に感謝申し上げます。

現場代理人　渡　邉　　主任技術者　石　川

9月

工事だより

Check!

平成20年度　上院内道路改良工事

進捗状況
8/29現在

NO.1

一号函渠工（完成）



二号函渠工（躯体完成）



護　岸　工（景観配慮機能型ブロック）



完成予想イメージ



右岸（60m）施工

★★★ちょっと歴史あれこれ★★★　湯沢市大名行列編



殿様巡行



やっこふり

大名行列は、毎年、愛宕神社の祭典に奉納される、秋田藩佐竹南家拾万石の格式を持つ行列です。行列は総勢六百人余で豪華絢爛たる往時をしのぶ大絵巻模様を呈し、正徳四年（西暦1714年）初めて町になった際に、愛宕神社祭典の余興として行ったのが始まりといわれています。

工事だより

平成20年度　上院内道路改良工事

進捗状況
7/29現在

NO.1

一号函渠工（躯体完成）



二号函渠工(型枠施工)



護　岸　工（緑化ブロック）



完成予想イメージ



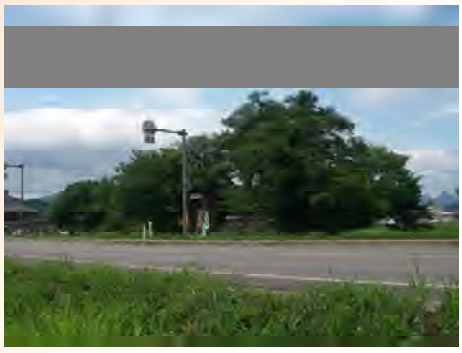
右岸ブロック施工

※ 8月12日～8月17日までお盆休みのため、工事休止します。

★★★ちょっと歴史あれこれ★★★　小野小町編



小町堂



二ツ森塚

今から1200年前頃に平安貴族の娘として生まれた小町は、父の影響力で後宮に仕え、ぬきんでた美貌と才能で京では社交界のスター的存在となった。
小町が四十歳頃に出羽の国、現在の旧雄勝町に帰り、晩年までこの地で暮らし世を去った。
二ツ森塚は小町を追ってきた深草少将と小町の塚と言い伝えられている。

7月

工事だより

Check! NO.1



平成20年度 上院内道路改良工事

小田原建設・山脇組経常建設共同企業体

現場事務所　0183-52-5100

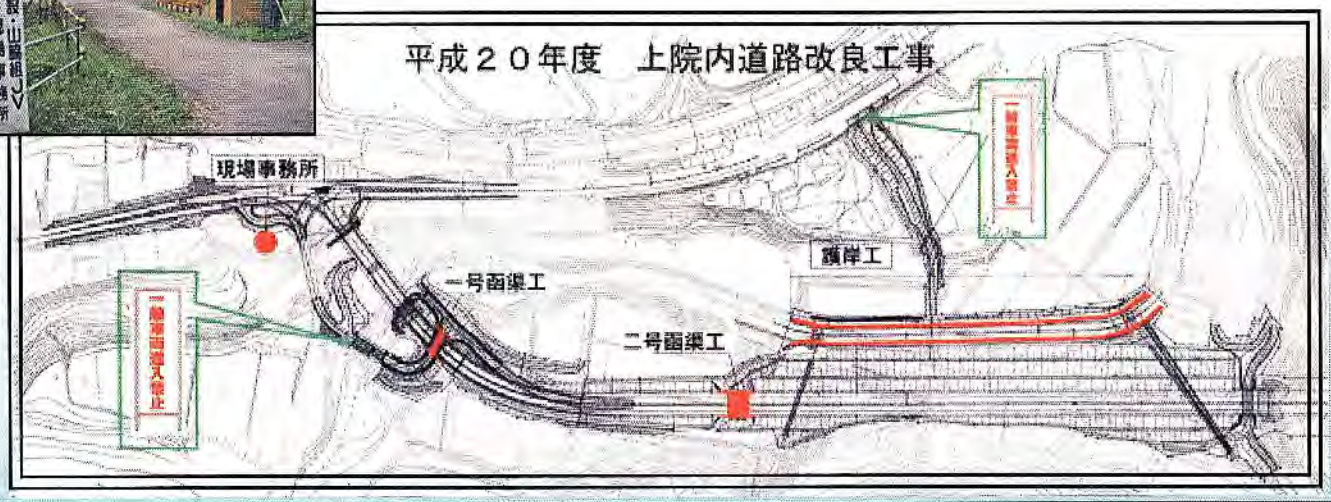
工事へのご協力のお願い

このたび、『国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所』発注の【平成20年度 上院内道路改良工事 】を施工することになりました。
上院内地区の国道13号線改良に伴う、函渠工2基と護岸工200mの工事を進めています。

工事施工期間中は、皆様にはご不便やご迷惑をかけることと思いますが、
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

工事についてお気づきの点やご意見がございましたら、上記までご連絡ください。





現場スタッフの紹介

主任技術者　石 川　司



現場代理人　渡 邊 正 人



担当技術者 高 橋 親 弘



環境・安全に配慮し、品質向上を目的とした現場施工を目指します。



工事だより

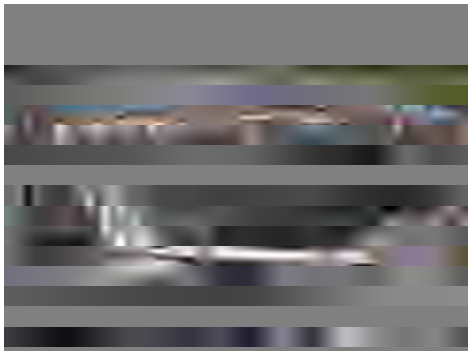
Check!

平成20年度 上院内道路改良工事

進捗状況 6/29現在

NO.2

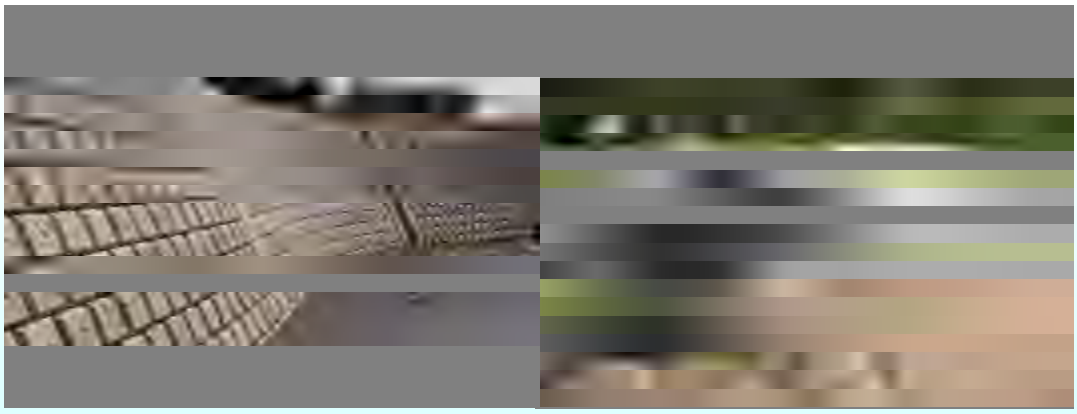
一号函渠工



二号函渠工

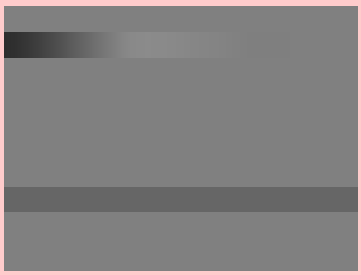


護 岸 工



完成予想イメージ　　掘削施工

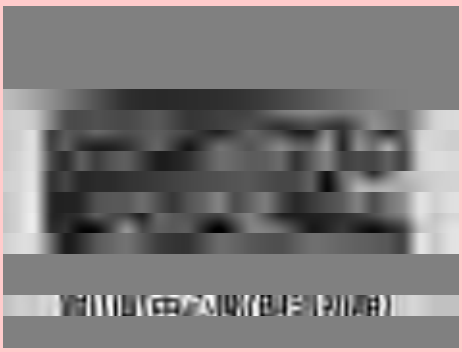
★★★ちょっと歴史あれこれ★★★　院内銀山跡



御幸坑



異人館跡



今から４００年前に発見された院内銀山は、最盛期には、人工1万人を超え、『出羽の都』と呼ばれ栄えていた。銀の産出量は、年間２０トンを誇り、繁栄は、明治･大正へと続いている。その後、銀価格暴落等によって、大正９年、採掘停止に至り、昭和初期に再興を図ったが、昭和２９年、全山休止となり現在に至っている。